

「とちぎ森林・林業・木材産業未来ビジョン2011」

平成24年度

実施状況報告書（概要版）

平成25年 7月30日

とちぎ森林・林業・木材産業未来ビジョン2011推進本部

「数値目標と実績」の達成度について

1 達成度の区分と表記方法

達成度の区分	表記方法	備 考
H 2 7年度目標達成	◎	
H 2 7年度目標達成に向け順調に進捗している	○	
H 2 7年度目標達成に向け進捗が遅れている	▲	備考欄に遅れている理由を簡潔に記載する。
現時点での判断が困難	△	備考欄に評価できない理由や取組状況について記載する。

2 達成度の判断基準

(1) 毎年度の目標値が設定されている指標→【類型A】

H 2 7年度目標値を達成	◎
H 2 4年度目標値を達成	○
H 2 4年度目標値を未達成	▲
現時点での判断が困難	△

(2) 最終年度の目標値のみが設定されている指標→【類型B】

H 2 7年度目標値を達成	◎
計画時基準値よりも向上	○
計画時基準値よりも下降	▲
現時点での判断が困難	△

目 次

平成24年度実施状況報告書（概要版）

1	「とちぎ森林・林業・木材産業未来ビジョン2011」の概要	P	1
2	重点目標	P	2
3	循環の森における取り組み	P	3
4	環境の森における取り組み	P	4
5	恵みの森における取り組み	P	5
	数値目標一覧	P	6

(平成24年度実施状況の概要)

1 「森林・林業・木材産業未来ビジョン2011」の概要

国の「森林・林業再生プラン」を踏まえ、本県の森林・林業・木材産業がおかれた状況や新たな課題に適切に対応し、充実してきた森林資源の循環利用を推進することを目的に策定。

(1) 計画の性格と役割（ビジョンの位置づけ）

- ① 本県の森林・林業・木材産業に関する基本的かつ総合的な計画
- ② 林業・木材産業が相互に連携した成長産業に再生するための指針
- ③ 森林の有する多面的機能を持続的に発揮する元気な森づくりを行うための指針

(2) 計画の期間

平成23年度から平成27年度を目標年次とする5カ年計画

(3) 計画の目標

- ① 林業・木材産業を新たな成長産業に再生します。
- ② 地球温暖化防止など、公益的機能を高度に発揮する森づくりを進めます。
- ③ 「フードバレーとちぎ」を目指し、特用林産物「もりの恵み」の生産振興と販売促進を図ります。

この目標達成のため、森林を「循環の森」、「環境の森」、「恵みの森」に分けて施策の展開を図っています。

重点目標

3つの森において取り組む重要かつ緊急性がある重点目標は、次のとおり。

- 森林資源の利用量（民有林の素材生産量：363千m³→463千m³）
- 森林管理面積（森林施業計画樹立面積：75千ha→森林経営計画策定面積：150千ha）
- 生しいたけの首都圏シェア（10%→シェア拡大）

(4) 計画の実現に向けて

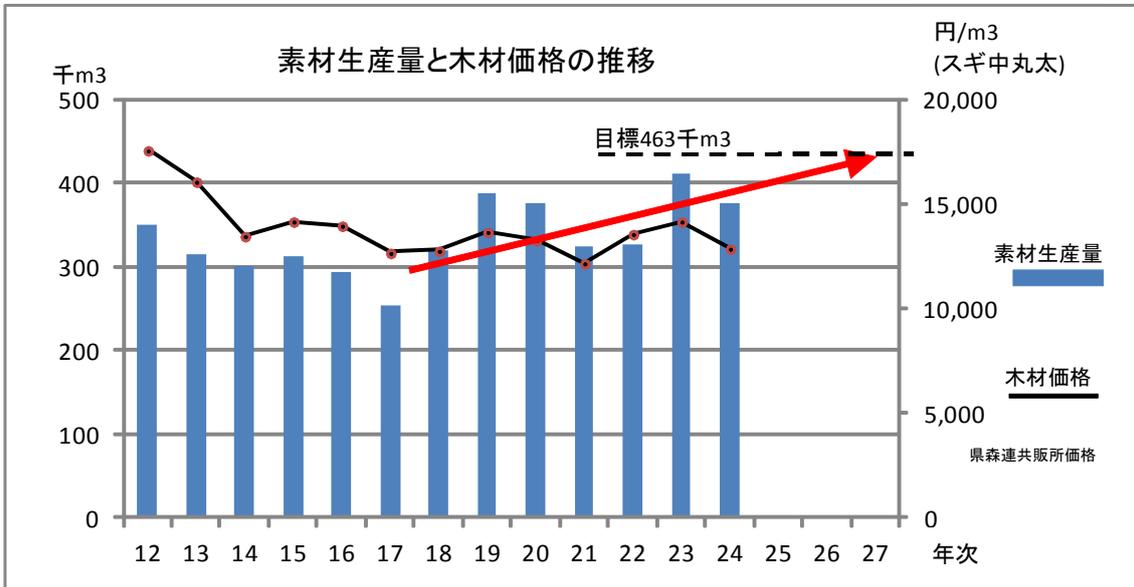
計画の目標達成に向けて、施策の進捗状況と目標設定した各種指標を点検評価し必要に応じて見直しを行うこととしています。

施策の進捗状況については、栃木県森林審議会へ報告するとともに、県HPを利用して県民に公表することとしています。

2 重点目標

(1) 民有林の素材生産量

素材生産量については、平成23年次は木材価格の上昇により、基準年より48千 m^3 増の411千 m^3 となり、また、平成24年次は木材価格の下落に伴い前年次より34千 m^3 減の377千 m^3 となりましたが、長期間で見ると増加傾向で推移しています。



(2) 森林経営計画策定面積

森林経営計画制度は、平成24年度より運用が開始されました。平成24年度は、旧制度（森林施業計画）から新制度（森林経営計画）への移行期に当たり、その制度の普及や策定指導に取り組んだ結果、森林経営計画策定面積は、45千 ha となりました。

項目	基準年	H27 目標	H23 実績	H24 実績
森林経営計画策定面積 (千 ha)	(H22) (75)	(-) 150	(73)	(14)
	-		-	45

※ () の数値は、森林施業計画策定面積

(3) 生しいたけの首都圏シェア

平成23年の福島第一原子力発電所事故の影響により、原木しいたけの生産量が大幅に落ち込みましたが、首都圏への出荷は菌床しいたけが主なため、11%で推移しています。

項目	基準年	H27 目標	H23 実績	H24 実績
生しいたけの首都圏シェア (%)	(H22) 10	シェア拡大	11	11

※首都圏シェアは、東京中央卸売市場における本県産のシェア

3 循環の森における取り組み

循環の森では、建築用材としての需要を拡大するため、乾燥材など品質の高い製品の生産拡大を進めています。

本県の主要品目であるスギ・ヒノキ無垢の人工乾燥材（KD）生産が、年間155千 m^3 に達し、国産材KD出荷量全国第2位に、全製材品出荷量に対する乾燥材が占める割合は全国1位となりました。

また、森林資源の循環利用を促進する林内路網などの基盤整備や人材育成については、ほぼ計画どおりに進み、特に森林経営計画を推進する森林施業プランナーの育成においては、計画終期目標の32人を超える54名に達しました。

今後、素材生産量を計画的に増産し、森林資源の循環利用を推進していくためには、施業の集約化や林内路網などの生産基盤の整備をより一層行い、更なるコスト削減を図るとともに、林業事業体の体質強化、搬出間伐の更なる促進、林地残材等のバイオマス利用及び皆伐施業を促進することが重要な課題になります。

(乾燥施設)



(路網整備)



(人材育成研修)



【主な数値目標】

項 目	基準年	H27	H23 目標	H24 目標	類 型	備 考
		目標	H23 実績	H24 実績		
乾燥材の製品 出荷量 (千 m^3 /年)	(H21)				B	
	112	130	150	155	◎	
搬出間伐面積 (ha/年)	(H21)				B	
	1,481	2,000	1,470	1,559	○	
林道・作業道延長 (Km)	(H21)		3,565	3,735	A	
	3,225	4,245	3,547	3,765	○	
森林施業プランナー の育成数 (人)	(H22)		10	15	A	
	5	32	32	54	◎	
認定事業体の数 (事業体)	(H22)		24	26	A	事業体の認定申請準備に時間を要した。
	23	35	21	22	▲	

4 環境の森における取り組み

地域の特性や課題に応じた多様で元気な環境の森づくりでは、ダム上流や集落水源地帯など重要な水源地帯において間伐や広葉樹林化、獣害対策の促進や、水源かん養保安林指定を進めるとともに、里山林において、生物多様性に配慮したモデル的な取り組みを4地区で実施しました。

また、治山事業の実施により、特に平成23年の東日本大震災や台風15号災害等による被災林地の早期復旧や、土砂流出防止機能、土砂崩壊防止機能などの森林の防災機能の回復を図りました。

県民等との協働による森づくりでは、「とちぎの元気な森づくり県民税」を活用し奥山林や里山林の整備を市町、県民と協働して進めるとともに、県民税の認知度を向上させるため、テレビ、ラジオ、新聞等の広報活動の実施や植樹祭やエコもりフェアなど県民が多く集まるイベントでの周知活動を行いました。また、企業等との森づくりを3箇所進め、防災パトロールを市町や地域住民等と連携し、30地区において実施しました。

今後も保安林指定や生物多様性に配慮した森づくりを引き続き進めるとともに、平成20年度に導入し5年目を迎えた「とちぎの元気な森づくり県民税」については、内容の見直しを行ったところであり、より効果的・効率的な執行に努めていきます。

(水を育む保安林)



(広葉樹林化した森林)



(県民税による奥山林整備)



【主な数値目標】

項目	基準年	H27	H23 目標	H24 目標	類型	備考
		目標	H23 実績	H24 実績		
水源かん養保安林 面積 (ha)	(H22)	55,000	52,000	52,700	A	
	51,466		52,650	54,526	○	
広葉樹林化面積 (ha/年)	(H21)	90	30	30	A	
	35		49	51	○	
とちぎ里山林モデル 地区数(箇所累計)	(H21)	5	1	3	A	
	0		2	6	◎	
山地災害危険地区 整備率 (%)	(H21)	46.5	44.6	45.0	A	震災や台風災害を優先し、進捗が遅れた。
	43.7		44.1	44.4	▲	

5 恵みの森における取り組み

地元の優良な特用林産物の加工・商品化を希望する企業や団体が積極的に連携し、開発された商品が17品になるなど“フードバレーとちぎ”が着実に推進しました。

しかしながら、平成23年の福島第一原発事故による放射性物質の影響を最も受けたのが、しいたけなど特用林産物で、特に、原木しいたけは、露地栽培で23市町、施設栽培で10市町が出荷できない状況になっています。

このため、放射能対策としてのモニタリング検査体制の強化により、消費者の食の安全・安心確保に努めるとともに、生産者に対し、汚染されていない新たなしいたけ原木への更新支援や放射性物質の影響の少ない栽培方法の研究・普及などを行いました。

今後は、これらの施策を引き続き進めながら国の出荷制限の解除や風評被害の払拭に取り組んでいきます。

(開発された商品肉まん)



(特用林産物)



(キノコ料理コンクール)



【主な数値目標】

項目	基準年	H27	H23 目標	H24 目標	類型	備考
		目標	H23 実績	H24 実績		
しいたけ生産量 (t/年)	(H21)		4,310	4,400	A	原発事故の影響
	4,230	4,650	3,395	2,439	▲	
異業種連携による 商品化(累計)	(H22)		7	9	A	
	5	15	15	17	◎	

数値目標一覧

No.	区分	項目	基準値	H27目標	H24目標	類型	担当課
					H24実績		
循環の森		乾燥材の製品出荷量(千m ³ /年)	(H21) 112	130		B	林業振興課
					155	◎	
		グレーディングマシン等の導入工場数	(H21) 4	5		B	林業振興課
					6	◎	
		JAS(機械等級区分)の取得工場数	(H21) 0	2		B	林業振興課
					2	◎	
		品目別の個別企業ブランド数	(H21) 10	15		B	林業振興課
					18	◎	
		とちぎ材認証制度の構築数	(H21) 0	1		B	林業振興課
					0	△	
		水平連携した取組数(件)	(H21) 15	20		A	林業振興課
					19	○	
		垂直連携した取組数(件)	(H21) 7	12		A	林業振興課
					14	◎	
		新商品開発数(件)	(H21) 5	8		B	林業振興課
					9	◎	
		ビジネスマッチング等による新たな取引数(件)	(H21) 0	5		A	林業振興課
		6	◎				
ウッドエンジニアの養成者数(人)	(H21) 0	2		B	林業振興課		
			1	○			
搬出間伐面積(ha/年)	(H21) 1,481	2,000		B	林業振興課 森林整備課		
			1,559	○			
集約化施業実施面積(ha)	(H22) 4,000	6,000		B	林業振興課		
			3,682	▲			
林道・作業道延長(km)	(H21) 3,225	4,245		A	林業振興課		
			3,735	○			
フォレスターの配置数(人)	(H22) 0	7		B	林業振興課		
			-	△			
森林施業プランナーの育成数(人)	(H22) 5	32		A	林業振興課		
			54	◎			
フォレストワーカーの育成数(人/年)	(H22) 10	20		A	林業振興課		
			23	◎			
認定事業者の数(事業者)	(H22) 23	35		A	林業振興課		
			22	▲			
環境の森		水源かん養保安林面積(ha)	(H22) 51,466	55,000	52,700	A	森林整備課
					54,526	○	
		山災害危険地区整備率(%)	(H21) 43.7	46.5		A	森林整備課
					44.4	▲	
		広葉樹林化面積(ha/年)	(H21) 35	90		A	森林整備課
					51	○	
		とちぎ里山林モデル地区数(箇所)	(H21) 0	5		A	自然環境課
					6	◎	
		「とちぎの元気な森づくり県民税」の認知度(%)	(H22) 42	増加		A	環境森林政策課
		41	△				
企業等との森づくり実施箇所数(箇所)	(H21) 5	35		A	地球温暖化対策課		
			18	▲			
防災パトロール地区数(旧市町村単位)(地区)	(H22) 10	30		A	森林整備課		
			30	◎			
保安林指定面積(ha/年)	(H22) 560	850		A	森林整備課		
			747	○			
恵みの森		GAP導入産地数	(H21) 2	10	7	A	林業振興課
					5	▲	
		生しいたけ生産量(t/年)	(H21) 4,230	4,650		A	林業振興課
					2,439	▲	
きのこ料理コンクール参加者人数(人/年)	(H22) 1,060	1,200		A	林業振興課		
			970	▲			
異業種連携による商品化(累計)	(H22) 5	15		A	林業振興課		
			17	◎			
共通		森林経営計画策定面積(千ha)	(H22) 75	150		B	林業振興課
					45	△	
		森林認証取得面積(ha)	(H22) 2,506	3,100		A	林業振興課
					2,617	▲	